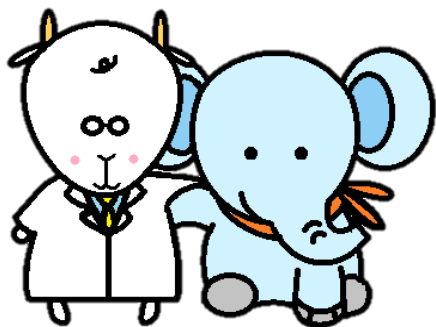




反応性アタッチメント症（反応性愛着障害） の支援に役立つカウンセリング



西明石カウンセリングオフィス



反応性アタッチメント症 (反応性愛着障害) について



反応性アタッチメント症（反応性愛着障害）とは

- 環境的問題、特に養育者の関わり方の不全によって、愛着形成の過程に問題が生じます。
- 乳幼児（5歳未満）に生じ、大人の養育者に対してうまく甘えられず、普通のとくに安楽*を求めず、安楽に反応しない様子がみられます。
- 持続的な対人行為と情動の障害といわれています。

*安楽…安心して楽しめること



反応性アタッチメント症

症状

- 明るく振る舞えない
- 嬉しさや楽しさの表現が少ない
- つらいときや甘えたいときにも素直に甘えられない
- 通常の交流の中でも説明のできないイライラ、悲しみ、警戒心、恐怖心が強い



対応

- ・ 大事な子どもだという観点に立ち、安心・安定・安全感を保つ環境をつくりましょう。
- ・ 安楽を求めてもよいというメッセージを送り続けます。
- ・ 支援する側の大人が情緒的に揺れずに対応することが大切になります。

治療

- ・ 不眠や不安に対する薬物療法が必要なこともあります
- ・ 養育者への発達ガイダンスなど支持的・教育的支援を行うこともあります



大人になってからの影響

- 子どもの頃の不安定な愛着形成は、大人になってから「自分の思っていることを上手に伝えられない」「周囲とうまく関係を築くことが難しい」「なじめない」といったような問題を生じさせる可能性があります。
- 子どもの頃、おやみに叱責されたり、猫可愛がりされたり、一定の対応をされない経験が、愛着関係の不全を引き起こすことにつながります。
- 適切な養育を通じた愛情をもった関わりが大切です。



カウンセリングでできる支援

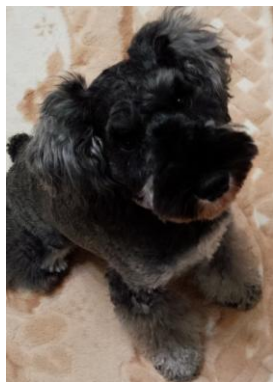
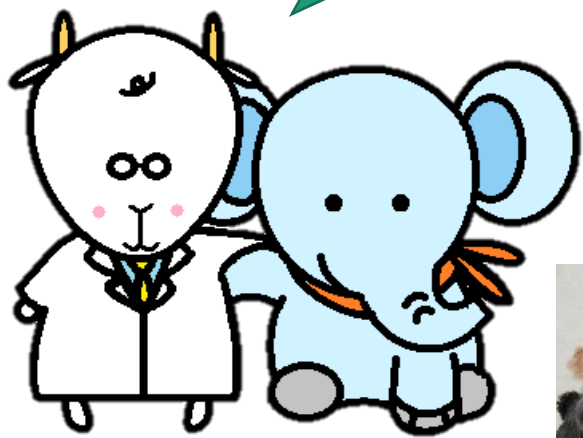


反応性アタッチメント症（反応性愛着障害） の支援に役立つカウンセリング

- 子どもの問題だけではなく、養育者も一緒に支援をしていくことで、交流の改善を図ります。
- 養育者が子どもに適切な方法で関わることができるよう、また子どもが養育者に安心して安楽を求めることができるよう、家族を含め幅広く支援を行います。
- 子どもが安心・安全に過ごし、人と接することに安心感や信頼感を持てるよう、心理療法を通して関わります。
- 心理教育による障害の理解や、日常の中でできる工夫を一緒に考えます。



シリーズで皆さんの参考になることを
お伝えします。



次回は 脱抑制対人交流症/ 脱抑制型対人交流障害について



愛着に関するテーマです



西明石カウンセリングオフィス

